
胡椒

吉野華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

胡椒

【Nコード】

N2023E

【作者名】

吉野華

【あらすじ】

南国の乙女はもう二度と逢うことのない恋人の無事を祈って静かに涙を流す。

南国育ちの娘たちが、海に向かって色とりどりの花びらを撒く。

日差しに負けぬ爛漫な微笑みと、色鮮やかな涙を送る。

遠い異国へ出港して行く帆船、青い海を渡る、その船旅の無事を祈って。

水平線に遠ざかって行く、愛しい人の無事を祈って。

けれども全員が分かっていた。旅立つ彼らのほとんどは、二度この地に戻らぬことを。

何処にも行かないでと泣き縋っても、彼らの正義は揺るがなかった。貧しい島になる胡椒の実が、外の世界では黄金であることを知ってからというもの、島の間人は皆何処かおかしくなってしまったからだ。

クラリッサも泣きながら花びらを撒いた。

君の幸せのためだと言って微笑んだ恋人の、あの慣れ親しんだ眼差しに、もうかつての愛がなかったことを思い出しながら。

彼は二度と再びこの島へ帰って来ることはないのだろう。

船が沖へと去ってしまうと、水面に散らばる白や桃色の花びらの残骸は、まるで二人が教会で誓いあうはずだったあの夢の結末そのものだった……。

やがて商売や見送りのために港に集まっていた者たちが家路につく頃、クラリッサも涙を拭い、そして大きく深呼吸をした。

もう何もかも忘れるのよ。わたしを捨てたあの人のこと、全部、全部忘れてしまうの。そう自分に言い聞かせながら見上げた空は青い。

「もう、気が済んだかい？」

ふとクラリッサの肩に、大きな手がそっと乗せられる。

振り返ると、そこには金髪碧眼の裕福そうな青年が微笑んでいた。

彼のすぐ後ろ側には、先刻のみすぼらしい帆船など問題にもならないような豪華船が停泊している。

彼はクラリッサの新しい恋人だった。

クラリッサの前の恋人が、新しい人生に繰り出すための軍資金を得ようとして、あろうことかクラリッサを大陸の金持ち男に叩き売ったのだ。けれども彼が読み違えたことは、クラリッサもまたそれまでの純情な娘のままではなかったということだった。

「酷い男もいたものだけど」

新しい恋人である大陸の金持ち男は呆れ顔で言った。

「あいつ馬鹿なの？ 自分から奴隷船に乗っちゃってさ」

「ええ」

クラリッサは晴れやかな笑顔で彼に微笑んだ。

「馬鹿野郎よ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2023e/>

胡椒

2011年1月18日02時59分発行